



右が新サンプルで左が現行のゴミ袋

ゴミ袋を切り取りやすく改良

● 12月ごろからゴミ袋の形が変更

福 智町のゴミ袋がより使いやすい形へと改良されます。新型グリップのゴミ袋は、切り取り位置がひと目で分かる切れ込みが入り、スムーズにはずせるようにミシン目が波形に入っています。現在の在庫がなくなり次第、12月から順次、新型に切り替える予定です。なお、材質や規定値段は現在と変わりません。ゴミ袋に関するお問い合わせは、福智町役場住民課環境衛生係 ☎(022)7761まで。



温泉施設に隣接する物産館 写真左側

12月1日のオープンを目指して

● 「日王わくわく物産館」の開設準備進む

ふ るさと交流館日王の湯の敷地内施設を活用した「日王わくわく物産館」の準備が12月1日のオープンを目指して、急ピッチで進められています。この物産館開設は、旧金田町からの継続事業で、利用組合が平成17年度に組織されました。パン・豆腐・野菜・加工品など、地元旬の素材を生かした品物が店頭に並ぶ予定です。お問い合わせは、福智町役場産業振興課産業・商工観光係 ☎(022)7767まで。

自立と介護をテーマに

● 福智町自立支援フェスティバル

ステージ開幕を飾った方城中吹奏楽部による演奏



「車いすを使ってでも自ら動き、感動したり刺激を受けたりすることが大切」と話す松尾助教授



一見難しそうな福祉用具も体験すると結構簡単

高 齢者や障がい者が自立した生活を送ることを目的とした福智町自立支援フェスティバルが、10月15日に方城体育館周辺の3会場で行われました。北九州市をはじめ遠方からの参加もあり、およそ230人が来場。講師を迎えた佐賀大学医学部の松尾清美助教授は、自らの車いす生活から、自立による新たな可能性や喜びをユーモアを交えて講演しました。「心がけ次第で今の生活を変えられる」という体験談に、来場した高齢者や障がい者は、希望と勇気を与えられた様子でした。介護する側の人もどのような自立をサポートすればよいのかを学び、今後の人との関わりかたを見直すいい機会になったようでした。



総理大臣代理 内閣官房から表彰を受ける浦田町長

内閣総理大臣賞受賞 福智町が広報日本一に

● 平成18年全国広報コンクールで最高賞



就任直後の安部総理からの賞状と銀杯

全 国広報広聴大会が9月28日29日に岡山県倉敷市で開かれました。大会初日に本年度の全国広報コンクールの表彰が行われ、浦田町長ほか広報担当者が出席。福智町に最高賞である内閣総理大臣賞が授与されました。受賞対象になったのは昨年の「広報あかいけ12月号」で、日本最高齢者の皆川ヨ子さん（上野）をはじめ3人を取材し、健康長寿のまちづくりについて特集したものです。福智町では偶数月に15日号を増発し、積極的に情報を提供していく方針です。広聴活動の充実も含め、住民参画型の行政を目指していきます。



登山の後も元気がよく、ふれあい塾での遊スキー

自然の中で多世代間とわくわく交流

● 4園ゆかいななかまのワクワク体験



夜はキャンプファイヤーとレクに夢中、翌朝は自然探検

4 園ゆかいななかまのワクワク体験が、金田ふれあい塾を拠点に10月20日から1泊2日の日程で行われました。県内6か所の3か年にわたるモデル事業で県教委主催、町実行委員会による福智町幼児体験活動研究開発事業の一環として開かれました。赤池福祉会の4保育所（上野・市場・赤池・中尾）の年長園児59人が参加。初日に上野小5・6年生との福智山登山、ふれあい塾でのレクリエーションやキャンプファイヤーなどを体験しました。子どもたちは自然の中で思いっきり体を動かし、小学生や地域のかたと多世代間交流を深めました。